



災害への備え・・・年の初めに当たって

校長 芝原 にはほ

明けましておめでとうございます。今年もよろしくお願ひします。

令和7年は、穏やかな年明けになりました。令和6年は、元日に能登半島地震が起き、その能登では、夏には水害の被害も重なりました。1月は、駅伝シーズン。全国都道府県対抗駅伝では、石川県は女子が45位、男子が47位でした。精神的なダメージや練習場所の確保など、調整が難しいのだろうと推察するとともに、復興半ばであることを実感する結果となりました。テレビ放送の音声拾う沿道からの「石川、ガンバレ!」の声援に涙が出ました。

さらに、全国都道府県対抗駅伝では、兵庫チームは、男女とも阪神・淡路大震災から30年経ったことを示すワッペンをつけてレースに臨んでいました。1995年1月17日、高速道路の橋桁が倒れている映像や街中が火の海になっている映像を忘れることができません。当時、神戸出身の彼氏と遠距離恋愛中だった高校時代の友人がパニックになってしまったことや数か月後にその2人が結婚することになり訪れた際に見た神戸の町の様子も思い出されます。被害の甚大さと同時に復興にかける人々の思いにも触れた気がしました。

阪神淡路大震災を機に、日本の災害対策や避難に対する考え方は大きく変化しました。震度観測点が大幅に増設され、被害情報の把握が迅速になり、テレビやラジオでいち早く報道されるようになりました。また、SNS等を利用した安否確認情報も整備されました。実際、私も、東日本大震災が起こったとき、日本人学校時代の同僚たちの安否確認に利用しました。カセットコンロのガスボンベの規格が統一されたり、水道の蛇口が下げ止め式になったりしたのもこの災害がきっかけです。そして、この災害をきっかけに、災害ボランティアが定着し、この年は「ボランティア元年」と言われています。被災者に寄り添うとはどういうことなのかを考えさせられます。

このように、大きな犠牲を払って得た教訓を私たちは活かしていかなければならないと思います。年の初めに当たって、各家庭で次のようなことを確認して見てください。

- ①避難場所、集合場所の確認
- ②連絡方法の確認
- ③家具の固定など、室内外の安全確認
- ④非常持ち出し袋や備蓄品の準備
- ⑤情報収集、通信手段の確保
- ⑥体力をつけておく



特に、子ども達だけの時、どう行動するかを各家庭でしっかりと話し合っ欲しいと思います。

今年一年が、皆様にとって、世界にとって健やかな年でありますようお祈り申し上げます。

サンライフ通信

児童数確保委員会では、年度末あるいは年度初めの各集落の総会にお邪魔して、留学制度(特に「親戚留学」)及び町小規模校小学校特別認可制度について、説明をさせていただいています。総会出席者数より多めに資料を持っていますので、総会の参加していないご近所さんや島外にお住まいの御親戚さんにも御案内いただけると助かります。御意見等があれば学校まで御連絡ください。



12月の学校生活アンケートではいじめに関する訴えはありませんでした。学校以外での様子も含めて、お気づきのことがありましたら、すぐに学校にお知らせください。